

V. 特記事項

1. LEO (GJS, GBS)

本学では、独自の英語教育プログラムとして、LEO (Language Education of Otemae) を開設している。

LEOは、“使える英語”を学ぶグローバルコミュニケーション教育の核となるプログラムで、1年次春学期より、学生を英語力別にクラス分けをした上で、1クラス30人程度の少人数制により演習形式の授業をおこない、コミュニケーション能力の修得を図っている。クラス分けの基準となるレベルは4段階となっている。各レベルの学修目標は、「レベル1 初級Ⅰ」がはじめて日本語を介さずに英語を英語で学ぶ人のための基礎トレーニングクラス、「レベル2 初級Ⅱ」が主に英語に慣れること、聞く力、話す力をつけるため、英文読解、文法、英作文などを学修、「レベル3 中級」がレベル2を発展させた形で英語の総合力をつけること、「レベル4 上級」が米国大学での授業を想定した内容とし、例えば、リサーチの方法、論文の書き方、ディベートなどを学修、といったものとなっている。LEOはいわゆる「英会話」クラスではなく、「読む」「書く」「聴く」「話す」という語学学修の4要素をすべてバランスよく学ぶことで、コミュニケーションの道具としての英語力を磨き、自分の思いを自分の言葉で語る力を培うことを目指している。また、LEOと併行して、米国大学の教養課程に準拠し世界と日本について学ぶ科目群で構成されたGJS(Global Japan Studies)、及び英語でビジネスの専門科目を学ぶプログラムとしてGBS(Global Business Studies)も開講されている。GBSプログラムの担当教員は、すべて英語ネイティブスピーカーで構成される。学生は、これらの教員の指導の下、英語でのグループワーク、プレゼンテーション、ディスカッションを通じてビジネスの理論と実践を修得すると同時に、実践的な英語力を高めている【資料特1-1】【資料特1-2】。

2. 教育ボランティア (学外者参加教育と外部評価)

本学では、平成23(2011)年度より、教育の質を高めることを目的に、学外から社会人の「教育ボランティア」を募集し本学の教育活動に参加していただいている。「教育ボランティア」登録の方々には、本学の教育に強い関心を持たれている社会人である。キャリアカウンセラー、企業の経営者や人事教育担当者、地域商工会の方々、本学の卒業生などさまざまである。自主的に参加をいただいております、本学の教育全般にわたるさまざまなご助言を第三者の視点からいただいている。

「教育ボランティア」の具体的な取り組みとして、コアカリキュラムの必修授業における、主としてプレゼンテーションを軸とした教育のいくつかの場面があげられる。令和3(2021)年度は、1年次「キャリアデザイン」における大手前プレゼンフェスタ・プレゼンテーション大会での審査員、3年次「ゼミナール」における教育ボランティア面談(全学生を対象とした個人面談)などに参加いただいた【資料特2-1】。学内関係者の教育のみでは得られない、多角的な観点からのアイデアが有意義に機能していると考えられる。

上記の教育活動は、全学プレゼンテーション実行委員会において管理・実施の後、コア教育連絡協議会での点検・評価を年度ごとにおこない、毎年修正を加えている。さまざまな場面において教育に参加していただけるよう試行錯誤している。